

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第24号

2023年7月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人 京都府病院協会 《発行人》若園吉裕 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東桐尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6072 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>

会長就任のご挨拶

会長 若園 吉裕



機構南京都病院院長の佐藤敦夫先生にお願いし、会計担当理事には引き続き日本バプテスト病院院長の尼川龍一先生にご就任いただきました。また事務局は京都府医師会の宮川明則氏と山口早余氏に担当していただくことになりました。

このたび、京都府病院協会の会長に就任させていただきました京都桂病院の若園吉裕です。どうぞよろしく願いいたします。本協会の起源は昭和26年4月に京都病院長会として発足し、その後昭和39年に京都私立病院協会が分離独立した後、昭和41年6月に京都府病院協会と名称を改め平成26年7月には一般社団法人京都府病院協会として法人格を取得し新たなスタートを切りました。そのような伝統ある本協会の発展に微力ながら役割を果たすことができました。新執行部はこれまで副会長をお勤め頂いている京都第二赤十字病院院長の小林裕先生に引き続きお願いし、新たな副会長を国立病院

新型コロナウイルス感染症については本年の5月8日より2類相当から5類へと感染症法上の扱いが変更され社会の活動性が少しずつ高まりつつありますが、またCOVID-19の感染者が増加してきました。この3年半を振り返り今後どのようにこの経験を生かしてゆくのか皆様と議論を重ねたいと思います。また医師の働き方改革についてはいよいよ2024年度から開始されます。今も超勤時間が960時間以内に取り込まれる工夫や日当直許可の取得に努められている病院や超勤時間が960時間をどうして超過するため医療機関勤務環境も評価センターに評価受審の書類を提出されている病院もあることと思います。多職種のタスクシフトも各病院で進められており

お互いに情報共有出来たらありがたいと考えております。前会長の辰巳会長が新たに企画されてきたECOM研修や看護師特定行為研修も引き続きゆきたいと思います。またCOVID-19の影響でなかなか計画できなかった旅行を含めた院長研修を今年は是非実現したいと考えております。今後新たにDX(Digital Transformation)対応を会員の皆様と共に考えてゆくことができれば、DXと申ししましても多岐にわたります。漠然としており私自身十分整理できておりませんが、まずはいくつかの分野で先進的に取り組んでいる病院のお話をお聞きしたいと思います。以前RPA(Robotic Process Automation)について島根県立中央病院院長の小阪先生に講演していただきましたが各病院のRPAなどの取り組みについても進められている病院がありました是非ご披露いただきたいと考えております。またCHART-TPに対する対応やサイバー攻撃に対する対策も進めてゆく必要がありますが、何からすすめるべきなのか悩まれている病院も多いことと思います。また医療でDXの中核をなす電子カルテやEHR(電子健康記録)など個人の医療情報や医療施設間の情報のやり

取りなどについてはその仕組みは以前より日本全体で共通でなければならぬと個人的には考えておりますがどの程度まで共通化を進めてゆけるのか関心を持ってゆきたいと思っています。さて今後大きな枠組みとして第8次医療計画や地域医療構想に沿って考えてゆく必要があります。各病院がそれぞれの地域でその役割を果たすために地域の医療機関間だけでなく患者さんの生活の場との連携がさらに必要となってきました。外来については紹介受診重点医療機関の整備が進められています。患者さんがまず地域の「かかりつけ医療機関」を担う医療機関を受診し、必要に応じて紹介を受けて「紹介受診重点医療機関」を受診し状態が落ち着いたら地域に戻るといった受診の流れを明確にすることが求められています。院内においても患者さんを中心においたPFM(Patient Flow Management)と介護も含めた地域との連携をさらに進める必要が増えてゆくものと考えられます。これらの整備にもDXが強く関わります。課題は山積しておりそれぞれの解決には地道な努力が必要かと思ひますが会員の皆様方のご意見や暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますことをお願いしまして私の挨拶とさせていただきます。

副会長就任のご挨拶

副会長
小林 裕

この度引き続き副会長を拝命しました、京都第二赤十字病院の小林裕です。もとより微力ですが、よろしく願います。

2020年から新型コロナウイルス感染により、3年以上にわたり、医療をはじめ社会そのものの在り様が変化しました。2023年5月8日から5類感染症となり、全数把握でなくなったため、詳細は不明ですが、定点把握の結果からは、6月下旬時点で新規感染者数は微増といったところようです。コロナウイルスはB A系統からX B B系統に置き換わってきており、第9波が来るのか来ないのか、来るとしてもどのような波になるのかは予想が困難です。最終的には、インフルエンザのように、通常診療の一つとして位置づけられるようになれば、と思いますが、今しばらくは、慎重に経過を見ないといけないと思われます。

コロナ禍がある程度収束したとしても、高齢社会の進展と人口減少のため、今後さらに医療のありようは大きく変化せざるを得なくなります。患者数も医療従事者数も減少を迎えるにあたって、医療機関の連携や統合がますます重要になります。2024年度には、

医師の働き方改革で時間外労働規制が開始されますし、医療、介護、福祉のトリプルで報酬改定もあります。また、特定行為に係る看護師をはじめ各職種間でのタスクシェア/シフトの推進は大きな課題です。さらに国は業務の効率化、質の向上のためのマインパークードの健康保険証利用や電子処方箋の導入等を手始めとしての医療DXを進めています。そして、今後AIが医療へどのように導入されてくるのかも非常に重要で興味のあるところです。これらの大きな変革の時に、京都府病院協会が担う役割はますます重要になります。若園会長のもと、会員相互に積極的な情報共有や情報交換を行い、医師会や行政とも連携を強くし、京都府の医療に貢献していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願います。

副会長
佐藤 敦夫

この度、副会長に就任致しました。若園会長とは大学の同級生でしたが、自分の狭い専門領域でひっそりと生息していた私には、理事会が若園先生と卒業以来の再会の場となりびっくり致しました。昔の結核療養所として京都都病院をご存知の先生は多いと思いますが、現在の結核病床は20床に過ぎず、180床は重度心身障害児病棟、60床は神経難病を中心とした障害者病棟で、40床が呼吸器科を中心とした一般病棟という構成となっております。呼吸器疾患、神経難病の領域は、肺がんを除いては、地域医療構想の柱である5大疾病に含まれておらず、最先端をいく超急性期病院が次々と改革を進めその姿を変えていく中で、昔ながらの病院の姿を留めているガラパゴス的な病院かも知れません。

そうは言いつても、地域医療構想、働き方改革、タスクシフト、物価の高騰、医療DXなど、病院に与えられる課題は次々に押し寄せて参ります。普通に良心的な医療を提供するだけではやっていけない病院の現状に対して、燃り続ける不全感を抱え、院長職についておりましたが、昨年から理事会に参加し、様々な問題に対する先生方の意見を伺えたことが大変助けになりました。また辰巳前会長のご活躍を拝見し、病院間での情報交換の場として、また病院が協力しながら事業を進めていく場として、府病協の活動が京都府の医療の進歩に結びついていく事を教えて頂いた気が致します。非力ではございますが、慢性期、回復期の病院の立場から急性期病院とは異なる視点で、若園会長のお役に立てればと思っております。どうぞご協力いただきます様、よろしく願い申し上げます。



一般社団法人 京都府病院協会 理事・監事
任期：令和5年6月定時総会（令和7年6月定時総会）

会長 若園 吉裕
(京都桂病院)

副会長 小林 裕
(京都第二赤十字病院)

副会長 佐藤 敦夫
(国立病院機構 南京都病院)

理事 尼川 龍一
(日本バプテスト病院)

理事 池田 栄人
(京都第一赤十字病院)

理事 岩本 一秀
(京都山城総合医療センター)

理事 尾池 文隆
(三菱京都病院)

理事 黒田 啓史
(京都市立病院)

理事 小池 薫
(国立病院機構 京都医療センター)

理事 阪上 順一
(市立福知山市民病院)

理事 澤田 秀幸
(国立病院機構 宇多野病院)

理事 水野 敏樹
(京都鞍馬口医療センター)

理事 吉岡 隆一
(京都府立洛南病院)

理事 吉田 憲正
(京都済生会病院)

監事 森本 泰介
(京都中部総合医療センター)

監事 辰巳 哲也
(京都中部総合医療センター)

令和5年度 定時総会を開催

若園新執行部が発足

令和5年度の定時総会を、6月6日(火)ホテル日航プリンス京都にて開催しました。今回の総会では令和5年度の事業計画・予算を報告するとともに、令和4年度の事業報告・決算、令和5年度通常会費ならびに新役員の選任について議案を上げし、いずれの議案も賛成多数で可決承認されました。

◆新任理事3名を迎えて
若園新執行部がスタート

第4号議案では、理事、監事の選任、第5号議案では、顧問の委嘱に関して議案を上げし、議長より主旨説明を行いました。今回は、任期満了に伴う役員改選があり、理事14名、監事2名ならびに7名の顧問の選任に関

し承認を求め、賛成多数で承認されました。

なお、総会終了後、理事会を開催し、代表理事(会長)、副会長、会計担当理事を選任。会長には、若園吉裕先生(京都桂病院)が就任し、若園新執行部が発足しました。副会長には小林裕先生(京都第二赤十字病院)、佐藤敦夫先生(南京都病院)が就任、会計担

当理事には尼川龍一先生(日本バプテスト病院)を選出しました。新理事として選任されたのは、次の3名の先生方です。任期は令和5年6月6日から令和7年6月定時総会まで。

尾池 文隆 先生
(三菱京都病院)

阪上 順一 先生
(市立福知山市民病院)

澤田 秀幸 先生
(宇多野病院)

なお、元会長の森本泰介先生、辰巳哲也先生には、監事として新執行部を支えていただきます。

◆令和5年度通常会費を承認

総会では令和5年度の通常会費についても審議され、「1病院80,000円」とすることを提案し、賛成多数で承認されました。また、令和4年度の事業報告・決算についても議長より主旨説明し、香川恵造監事による会計監査が行われた後、採決に入り、賛成多数で承認されました。当日、採択された議案は上記のとおり。



令和5年度 通常会費について

令和5年度の通常会費については、去る6月6日(火)に開催されました「令和5年度定時総会」におきまして、以下のとおり承認されましたので、お知らせいたします。

令和5年度
通常会費

80,000円



<http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp>

◆病院経営調査、働き方改革アンケートの結果について
会員病院の協力により実施した病院経営調査、働き方改革アンケートの結果について、辰巳監事より報告しました。結果の詳細については、本会ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

令和5年度事業計画(基本方針)

1. 基本方針

昭和26年4月26日、京都病院長会として発足した本協会は、昭和39年に京都私立病院協会が分離独立した後、昭和41年6月1日に京都府病院協会と名称を改め、さらに平成26年7月には、一般社団法人京都府病院協会として新たなスタートを切りました。法人化後の9年間、新型コロナウイルス感染症にも対応しながら、会員病院の皆さまのご理解、ご協力のもとに、病院団体としての発信力を強化しつつ順調に運営を行って参りました。

2019年12月以降、中国から広がった新型コロナウイルス感染症は全世界で感染拡大が生じ、2023年3月上旬には世界の感染者数6・75億人、死亡者数687万人に達し、第8波がようやく収束した日本でも感染者数3300万人、死亡者数7万2千人となりました。感染拡大の第1波から第8波の今日に至るまで、医療現場の最前線でご尽力頂きました医療従事者すべての皆さまに對しまして、心から敬意と感謝の意を表します。

今回の新型コロナウイルス感染症危機から、我々は、①平時から地域医療全体を視野に入れて入院・外来・在宅にわたる医療機能の分化・強化と連携をしっかりと図ること、②急速

な医療ニーズが生じる非常時には必要な医療を役割分担・連携やネットワークにより提供していくことの重要性を改めて学びました。今後、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針が決まりましたが、感染者の受け入れや救急搬送困難事例等の医療提供体制の確保、重症化リスクの高い人への対応、入院・検査の公費負担をいつまで継続するかなど多くの課題は残っています。

コロナ禍で経験した様々な経験をもとに、未知なる新興感染症を想定した対策の構築や、いつ起きるかもしれない大規模自然災害などに対応するため、病院間・病院診療所間のネットワーク化を機能させ、情報システム整備を格段に推し進め、人的資源を有効に活かしてサージキャパシティをどう構築するかなど、しっかりと議論していくべき重要な課題がたくさんあると考えます。京都府病院協会では、今年度も新興感染症対策の一環での「ECMO研修会」を京都府や大学、基幹病院と共同で企画し、実施したいと考えています。是非、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

また、2024年4月に迫った医師の働き方改革では研修会とともに

適時アンケート調査を実施し、会員病院間での研修・情報共有を行ってきました。働き方改革では「医師免許を保有していなくとも実施可能な業務」を他職種に移管し、医師は「医師でなければ実施できない業務」に特化する「タスクシフティング」の重要性が挙げられています。特に、外科術後管理、術中麻酔管理、救急領域などの特定行為を実施できる看護師を育成し、その活動を院内で支援していくことは各医療機関における医療の質の向上にも役立ちます。

京都府病院協会では大学と協力しながら、今年度も特定行為研修制度を臨床現場に定着させ、その活動を支援していく仕組みの議論や方策のためのセミナーを引き続き企画します。是非、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

少子超高齢社会がさらに進む中、Afterコロナ時代を見据えつつ、これまで議論されてきた地域医療構想に加えて、新興感染症への対応、医師の働き方改革、かかりつけ医療機能、医療DXの推進・活用、医療の質と安全、医療従事者不足(人材確保)、医師偏在・診療科偏在、新専門医制度・総合診療医育成など医療を取り巻く諸課題は、何一つ疎かにできず互いに密接に関連しあうことから、一体的な対応が必要であります。特に目前に迫っております医師の働き方改革では職員の意識改革や業務の効率性を確保するなど、新た

な働き方に即した病院づくり・組織づくりが求められています。

今後、行政側は病院や診療所ごとの機能・役割分担・連携をさらに明確化して地域医療構想を推進していく舵取りを行い、地域ごとに未来を見据えた医療体制のしくみづくりを第8次医療計画に盛り込んでもらいたいと思います。さらに、国民の皆さまには医療のかかり方、コンビニ受診の是正、かかりつけ医制度の徹底などを周知してご理解してもらえよう啓蒙していく必要を感じます。

京都府病院協会が行った会員病院への令和3年度経営アンケート調査では外来延患者数、入院延患者数、手術件数などは回復傾向にはあるも

の、令和2年に引き続き抑制されてきました。収まる気配が見えないロシアによるウクライナ侵攻による急激な物価高、長引く円安の影響など国民の生活とともに病院経営も極めて難しい局面が続くと予想されます。

会員病院ごと個々の地域実情に応じた医療提供体制の確保を目指して、行政側とともに京都府病院協会の皆さまと設立母体の多様性を超えた前向きな議論を今後も展開していきたいと願っています。

コロナ禍が一刻も早く終息することを願いつつ、会員病院の皆さま方におかれましては、今年度もさらなるご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第58回 京都病院学会のご案内

本年度58回目となる京都病院学会は、WEB形式を中心として10月29日(日)より開催されます。今回の学会は京都府病院協会が担当となり、若園吉裕先生(府病協:会長)が学会長を、小林裕先生(府病協:副会長)が実行委員長を務めます。多数のご参加をお待ちしております。

開催日時 令和5年10月29日(日)～11月26日(日)

基調講演 「ACPを目指す取り組みと落とし穴」

池永 昌之氏
(淀川キリスト教病院緩和医療内科主任部長)

特別講演 「医師の働き方改革に伴う地域医療体制」

城守 国斗氏
(日本医師会常任理事・医療法人三幸会理事長)

京都病院学会事務局 連絡先

〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地
COCON烏丸8階(京都私立病院協会内)
TEL: 075-354-8838 FAX: 075-354-8802
MAIL: gakkai@khosp.or.jp